



中村文子 議員

雨水利用の促進を

質問

建設予定の総合斎苑や給食センターに、雨水を地下にためる地下型貯留槽を設置して、雨水利用を図っては。

市民生活部長

総合斎苑では、設計段階で検討したが、散水用に利用する計画である。

質問

「流せば洪水、ためれば資源」雨水は地球を救う
今、全国的に公共施設に雨水導入システムが取り入れられてきている。

今後の渇水対策や洪水危機

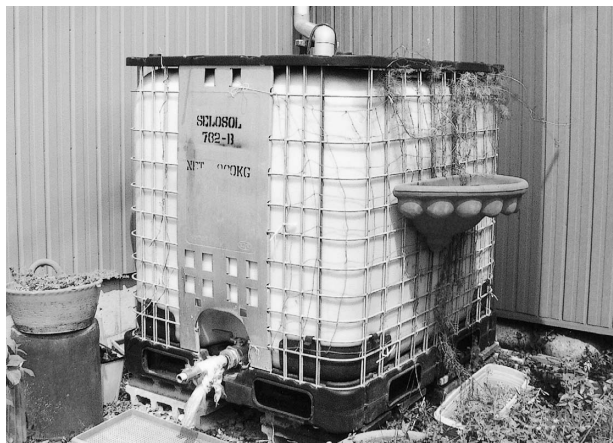
管理対策と、雨水利用促進のためにも、公共施設建設の際には、積極的に雨水の導入をすべきである。

水道料金の節約にもなる。前向きに検討を。

当市に雨水の有効活用事例はあるか。

企画部長

永和地区の東部防災コミュニティセンターは、地下式貯水槽タンクがあり、トイレや散水用に利用している。災害時には防火水槽や、ろ過



再利用の雨水タンク

装置で飲料水としても使用可能である。

地下式の雨水利用施設は、このコミュニティセンターだけである。

市民生活部長

親水公園総合体育館、佐織中学校では、トイレや草木の散水などに利用している。

企画部長

水道使用量は一概に比較できないが、市江地区のコミュニティセンターと比較すると、年間1/6程度ではないかと思う。

質問

雨水貯留施設や雨水浸透施設の設置、雨水タンクの購入に助成金・補助金を出している自治体がある。

助成金制度の考えは。

公共下水道の整備に伴い、不用となった家庭の浄化槽を貯水槽に転用する費用の助成は。

上下水道部長

浄化槽の転用については、撤去できない場合には、雨水貯留施設として活用する方法があることなど紹介してきた。雨水貯水槽への転用助成については、接続率アップを図る面からも、流域下水道事業の構成市町状況を見ながら、国の助成制度も含めて、積極的に検討する。

元気ある愛西市を目指して

質問

21年6月30日に、親水公園総合体育館で、「愛西のびのびストレッチ」の発表会が行われたが、このストレッチ運動を知らない人は多い。今後普及、啓発をどのようにすすめていくか。

質問

市民が健康で長生きできるよう、ストレッチ運動の普及や、特定検診の受診率の促進を図っては。

市長

環境と同時に、健康が一番である。子どもからお年寄りまで、健康で過ごしていただけたら、関係の施策にも努めていきたい。

市民生活部長

各地区のコミュニティのウォーキング大会や、地区の体育大会、中学校などでも活用したい。要望があれば、出前講座な